

高等学校

平成 5 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

保 健 体 育

東 京 都 教 育 委 員 会

平成 5 年度
教育 研 究 員 名 簿

	氏 名	学 校 名
陸 上 競 技	○吾 妻 洋 史 堀 江 節 銅 谷 新 吾 佐 藤 静 代 磯 村 元 信 松 岡 保 雄 鹿 島 修	都立羽田高等学校 都立駒場高等学校 都立玉川高等学校 都立八王子北高等学校 都立八王子工業高等学校 都立東村山高等学校 都立狛江高等学校
バ レ ー ボ ー ル	○金 城 和 貞 ◎松 元 敏 雄 長谷川 登 中 村 茂 一 松 幹 郎 大田原 弘 幸	都立杉並高等学校 都立井草高等学校 都立竹台高等学校 都立深川高等学校 都立紅葉川高等学校 都立富士森高等学校

◎全体世話人 ○副世話人

担当 体育部体育健康指導課 体育健康指導課長 高 田 日呂美
指導主事 本 村 清 人
指導主事 柿 添 賢 之

目 次

主題 「学習意欲を高め、自主的に実践する能力と態度を培う学習指導の工夫」

－陸上競技・バレーボールを通して－

I 研究主題と研究経過

1. 主題設定の趣旨	2
2. 研究の方針	2
3. 研究の経過	2

II 研究の内容

「陸上競技」

1. 研究内容	3
2. 「陸上競技」の特性とねらい	3
3. 意識・実態調査とその考察	4
4. 指導計画	6
5. 指導事例（実証授業）	9
6. 指導結果とその考察	11
7. まとめと今後の課題	12

「バレーボール」

1. 研究内容	14
2. 「バレーボール」の特性とねらい	14
3. 意識・実態調査とその考察	15
4. 指導計画	17
5. 指導事例（実証授業）	20
6. 指導結果とその考察	23
7. まとめと今後の課題	24

I 研究主題と研究経過

1. 主題設定の趣旨

今日の科学技術の進歩と経済の発展は、情報化・国際化・価値観の多様化・高齢化など、社会に大きな変化をもたらしている。この変化の激しい社会の中で、自由時間の増加や生活水準の向上などを背景に、体育・スポーツは健康や体力の向上のためだけでなく、人生をより豊かに充実させるための「生きがい」や「文化」の一つとして生活の中に定着してきている。

学校体育では、生涯にわたって運動やスポーツを計画的・継続的に、実践する能力や態度を育てることが求められている。中でも選択制授業を取り入れることにより、運動の楽しさを求める自主的・主体的な学習の展開が期待されている。

平成5年度教育研究員保健体育部会は、生涯体育・スポーツの基礎づくりという観点に立ち、研究主題：『学習意欲を高め、自主的に実践する能力と態度を培う学習指導の工夫』に基づき、選択制授業の「陸上競技」「バレーボール」を通して主題にせまることにした。

2. 研究の方針

研究は、A班は「陸上競技」、B班は「バレーボール」について生徒の意識・実態を調査し、新学習指導要領の趣旨をふまえ、実証授業を行い、その結果を分析・考察する。

(1) A班「陸上競技」では、生徒が希望する種目を選択し、一人一人が適切な学習課題を持ち、安全に留意しながら協力して課題に挑戦し、達成した喜びを味わい、学習意欲を高め、自主的・計画的に学習に取り組むことのできる指導計画を作成し研究する。

(2) B班「バレーボール」では、オリエンテーションを重視し、ゲームの楽しさにふれながら、学習資料・学習ノートを活用することにより、チームや個人が適切な課題を見だし、自主的・計画的に学習を進めることができる指導計画を作成し、研究する。

3. 研究の課題

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 4・5・6月 | 先行研究の調査, 研究主題の設定, 研究計画の確認, 研究構造図の作成 |
| 7・8月 | 実態調査及び集計・分析・考察, 仮説の設定, 指導計画・内容の検討 |
| 9・10月 | 指導計画の作成, 実証授業, 結果の分析・考察 |
| 11・12月 | 報告書の作成, 副資料の作成 |
| 1・2月 | 報告書の作成, 研究発表の準備, 研究発表, 本研究の反省と整理 |

Ⅱ 研究の内容

『陸上競技』

1. 研究内容

自主的な運動への取り組み方及び、楽しさや喜びを味わう学習の仕方を工夫することは、生徒一人一人と運動との結び付きを大切にする考え方であり、生涯体育・スポーツの基礎を培うもとして、学校体育における今日の重要な課題である。

本年度の研究主題は、『学習意欲を高め、自主的に実践する能力と態度を培う学習指導の工夫』である。A班では「陸上競技」を取り上げ、領域内種目選択を実施した。そして、生徒の自主的な学習活動を促し、生徒一人一人の学習意欲と能力を高めるための「学習資料の工夫」に重点を置き研究を進めた。

選択制授業や陸上競技に対する生徒及び教師の意識・実態調査を行った。そして、調査結果を分析し、さらに問題点を検討し、その結果をもとに次の仮説を設定した。

◎仮説

『生徒一人一人に、自己の特性に応じた学習課題を設定させ、学習活動を計画し実践させることで、学習意欲を高め、自主的に学習できる能力と態度を培うことができる。』

そこで、上記の仮説を検討するために、指導計画を作成し、実証授業を行い、その結果を分析・考察した。

2. 陸上競技の特性とねらい

(1) 特性

- ア 陸上競技は走・跳・投などの運動で、速さ・高さ・距離などを競い合う運動である。
- イ 自己の記録の向上の喜びや、競争の楽しさを味わうことができる。
- ウ 多様な種目があり自己の能力・適性に合わせて選択することができる。
- エ 個人の能力に合わせた目標を設定しやすい。
- オ 合理的なフォームが直接記録に結び付き、適切な助言などにより効率的な動作を身に付けることができる。

(2) ねらい

- ア 自己の能力，適性，興味・関心等に応じた種目を選び，各種目の技能構造や練習方法を理解し，課題に合った練習を通してより高い技能を身に付けるようにする。
- イ 学習を通してルールやマナーを理解し，公正な態度を養う。
- ウ 個人の能力に合わせて課題を設定し，学習計画を立案・実践することにより主体的に学習する能力を養う。
- エ 用具の準備・点検，他者への観察・助言などを通して協力し，安全に学習する能力を養う。
- オ 自主的な学習を通して運動に親しむ能力と態度を身に付け，生涯体育・スポーツの基礎を養う。

3. 意識・実態調査とその考察

(1) 調査対象 都立高校保健体育科教諭 37 校 95 名

都立高校 3 学年生徒 978 名

男子 439 名 女子 539 名

(2) 調査内容

〔生徒〕	〔教師〕
・陸上競技のイメージ	・選択制授業の実施状況
・陸上競技の種目の経験	・担当時間
・授業形態	・施設，用具
・陸上競技の楽しさ	・陸上競技のイメージ
・陸上競技の取り組み	・授業形態，グループ編成
・学習課題の立て方	・学習資料，教材の活用
・参考資料の活用	・学習課題の立て方
・評価	・安全に対する配慮，工夫
	・評価

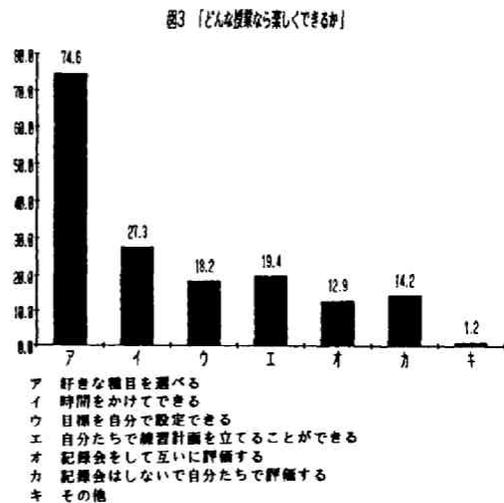
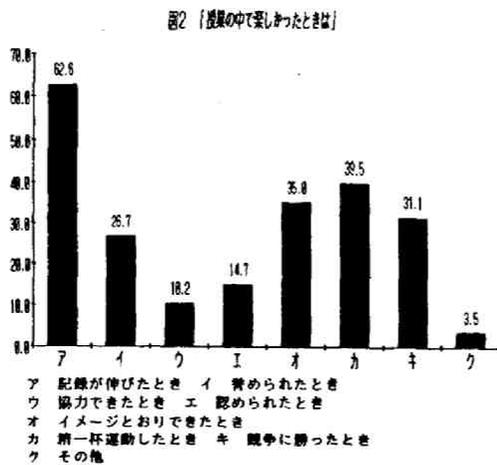
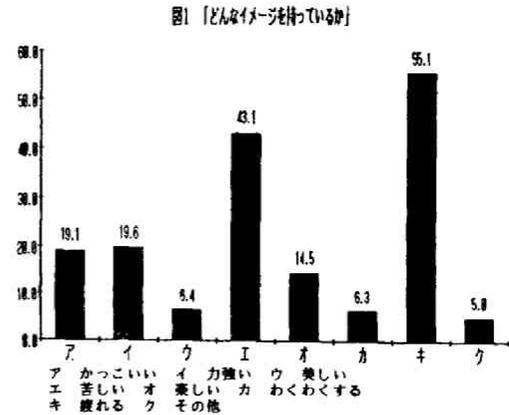
(3) 調査時期 平成 5 年 7 月

(4) 結果と考察

- ア 陸上競技は男女ともほとんどの生徒が経験しており，短・中・長距離走，障害走，走り幅跳び，走り高跳びなどを70%以上経験している。

イ 「陸上競技にどんなイメージをもっているか」という問いに対して、生徒は「苦しい」「疲れる」というイメージをもっており（図1）、教師も「陸上競技を扱う時どんな感想をもっているか」の問いに対し、「生徒が関心を示さない」と生徒とほぼ一致したイメージをもっている。陸上競技に対し、より興味・関心をもたせるためには指導方法の工夫・改善を行うことが重要である。

ウ 陸上競技の授業で生徒が楽しいと感じる時は「記録が向上した時」62.6%、「精一杯やった時」39.5%、「自分のイメージ通りできた時」35%をあげている（図2）。また、「好きな種目をさらにやりたい」74.6%、「時間がもう少し欲しい」27.3%、「種目を自由に設定したい」18.2%と感じている生徒も多い（図3）。



エ 「どの授業形態を望むか」については53%の生徒がグループでの学習・班別学習を望んでおり、自主的活動を希望している。一方、一斉学習を望んでいるものが43%いる。今までの授業形態が一斉学習が多かったため、グループでの学習・班別学習の経験が少

なく、自分たちで自主的に活動できるか不安をもっているからと考えられるが、学習を進めていく上でこの不安は解消できると思われる。

オ 学習を進めていく上で「学習課題をどのように立てればいいか」の問いに、自分たちで学習課題を決めていく方が良いと考えている生徒が50%を越えている。教師側も助言を与えながら生徒が主体的に決めていく方が良いと考えている。このことから、生徒側・教師側とも学習課題の設定では、一人一人の生徒の特性を積極的に認め、興味・関心や自己の能力に応じて、生徒たちが主体的に課題を設定し、学習に取り組む姿勢が必要であると考えており、一致が見られた。

カ 陸上競技に対して、未経験の種目に対する興味・関心が多くの生徒に見られる。男子ではやり投げ、棒高跳び、女子ではリレー、やり投げに関心が高い。これらの要求をすべて満たすことは、施設・設備の他に安全面の問題がある。しかし、教師側の回答からは安全上複数の種目を同時に展開することについては消極的であるが、事前指導や用具の点検などを重要視している。したがってこれらの点をふまえつつ、生徒にもより安全に実践する能力を培いながら、幅広い種目の設定を考えることが、生徒の意欲的な学習につながると考える。

キ 「評価は誰に行ってもらいたいのか」という問いに対し生徒は「自己評価」「自己評価、相互評価を重視し教師が評価」を望み、全体の70%近くを占めている。生徒の「自己評価」「相互評価」を十分に活用することは、生徒が主体的な学習を進めるうえで大きな役割を果たすと考えられる。

ク 評価内容について、生徒は「記録の伸び」35.7%の他に「意欲」58%、「イメージ通りできた」26.8%、「協力した」28.5%に重点を置くことを望んでおり「どんな授業なら楽しいか」の結果とも一致する。教師側も上達度の他に意欲・協力・工夫を重視しており、生徒が評価して欲しい内容と一致している。

以上の結果から、生徒一人一人に陸上競技の種目を適切に選ばせ、十分時間をかけながら自らが決めた課題を達成させることで、意欲的に学習に取り組む能力と態度が培われると考えられる。

4. 指導計画

(1) 指導方針

ア 陸上競技の特性を理解させ、記録が向上したときの喜びや競争の楽しさを味わわせる

ようにした。

イ 生徒の能力に応じた課題を設定させ、自主的・計画的に活動できるようにした。

ウ 自他の健康・安全に留意し、互いに協力して活動できるようにした。

(2) 指導の工夫

指導の工夫としては、生徒の特性をとらえ、一人一人を伸ばす学習指導の工夫に重点を置いて学習を進めた。

ア オリエンテーションの重視

オリエンテーションを十分に行い、種目選択の仕方、学習計画の立案、学習資料の活用の方を理解させ、安全に学習する態度を身に付けさせる。

イ ゆとりのある時間配分

ゆとりのある時間配分をし、生徒一人一人が特性に応じて、創意・工夫・努力していく過程の中で運動の特性にふれさせていく。

ウ 特性に応じた種目選択

領域内種目選択により、7種目の中から生徒一人一人の能力、運動経験、興味、関心等によって2種目を選択し、生徒が自主的・主体的な学習活動を進めていくことにより、成就感や達成の喜びを味わわせる。

エ 学習資料等の活用

学習資料・視聴覚教材・技能カルテ・グループノート・個人カード等を活用し、学習課題の設定、学習計画の作成、技能の習得、学習の評価など、生徒一人一人が主体的に学習に取り組めるようにする。

オ 試しの記録会・中間まとめ・まとめの競技会の設定

これらの記録会、競技会、まとめの時間を設定することにより、自己の能力に応じた課題の設定、自己の学習段階の確認、今後の学習計画の再検討、個人の課題の達成状況等を確認することに役立てる。

(3) 単元計画

ア 今回は第2学年を対象に20時間を配当した。

イ 単元計画は、オリエンテーション・ねらいⅠ・中間まとめ・ねらいⅡ・まとめの指導計画を作成した。

オリエンテーション・ねらいⅠ・中間まとめ・ねらいⅡ・まとめの指導計画

段階	時間	時数	ねらい	生徒	評価	教師
				学習活動		指導上の留意点
オリエンテーション	第1・2時間目	2	選択制授業及び領域内種目選択による学習の進め方を理解する	①学習の進め方 ②陸上競技の特性の理解 ③学習資料の効果的な活用の仕方 ④種目の選択 ⑤器具の設置・点検 ⑥練習方法の確認	・学習の進め方が理解できたか ・適切な種目選択ができたか	・学習のねらいと進め方を十分理解させる ・領域内種目選択を理解させ、適切な種目選択をさせる ・安全への配慮のため器具・用具の設置と点検、練習方法を理解させる ・学習資料の活用方法を理解させる
ねらいⅠ	第3・4・11・12時間目	2	試しの記録会により学習計画を立案する	①試しの記録会による自己診断 ②班及び個人の目標の設定 ③課題の設定 ④学習計画の作成	・目標や計画が適切であるか ・十分に話し合いが行われているか	・自己の課題に合った学習計画を立てられるように助言する
	第5～6・13～14時間目	2	個々の課題に応じて技能の向上を図る	⑤学習計画に基づいた種目別グループの活動 ⑥基本的な技能の習得	・意欲的、主体的に活動できたか ・基本的な技能が身に付いたか	・練習手順を理解させ、選んだ種目に親しませる ・器具・用具の管理と安全に注意させる ・協力して安全に活動するようにさせる
中間まとめ	第7・15時間目	1	種目別グループでの学習活動を評価し今後の学習を再検討する	①種目別グループ毎の記録会 ②相互評価 ③今後の学習活動の再検討と、新たな課題の発見	・適切な意見が出されているか ・意見を学習活動の再検討や新たな課題設定に生かしているか	・まとめが適切に行われるようにさせる ・記録会で得られた意見から学習を再検討し、今後の課題を明確にさせる ・十分に話し合わせ、学習の再検討をし、今後の活動が安全かつ円滑に行われるようにさせる
ねらいⅡ	第8～9・16～17時間目	2	高まった技能に応じて新しい工夫をする	①個々の課題に応じた練習 ②より発展した技能の習得	・課題の発見解決に協力しているか ・技能の向上がみられたか	・合理的で安全な練習をさせる ・安全確保のため練習方法を点検させる
最終まとめ	第10・18時間目	1	学習のまとめとして記録会・競技会を運営し、お互いに評価し合う	①種目別グループ毎の記録会 ②自己評価・相互評価 ③種目別グループでの話し合いと種目のまとめ	・技能が向上し、陸上競技の楽しさに触れたか ・記録会・競技会の企画運営に協力できたか	・課題の設定や学習計画について検討させる ・安全かつ円滑な記録会、競技会の進行について配慮させる ・学習ノートをもとに学習の過程を認識させる
	第19・20時間目	2		④競技会 ⑤学習ノートの整理、学習全体のまとめ ⑥感想文・アンケートの提出	・継続的に運動を実践する意欲、能力が身に付いたか	・正しく自己評価、相互評価ができるようにさせる ・グループ毎のまとめと評価を行わせ、次へのステップとさせる

5. 指導事例（実証授業）

単元名	陸上競技	配当時間	20時間中 1 時間目	学年	第 2 学年男子40名女子 1 名
本時のねらい	◎オリエンテーションⅠ ・選択制授業及び領域内種目選択の意義，ねらいについて正しく理解する。 ・陸上競技の特性を理解し，自主的に，安全に学習を行う方法等を理解する。 ・自分で学習する種目を選択する。				
施設 用具	学習資料（説明用プリント，陸上競技種目別技術解説ビデオ，グループノート）				
段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> 集合，挨拶 出欠点呼 選択制授業における陸上競技の授業の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で課題をもちながら，種目別グループでの学習を通して，自主的かつ安全に学習を進めていく授業の進め方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的，積極的に取り組むことの大切さを強調する。 積極的，主体的に活動することにより，達成感・成就感が得られ生涯にわたって運動に親しむ能力や態度が養えることを理解させる。 教師は，生徒が自主的に学習を行えるための指導者であると同時に積極的な援助者であることを理解させる。 	
展開	20分	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技の特性 	<ul style="list-style-type: none"> 解説ビデオを見ながら陸上競技のそれぞれの種目の特性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを使用し，興味・関心を引き出しながら，特性を理解させていく。 	
	15分	<ul style="list-style-type: none"> 種目の選択 学習グループの確認 	<ul style="list-style-type: none"> 種目の特性を考えながら，各自の興味・関心・特性にあった種目を選択する。 同じ種目を選択したものをグループノートに記名し，班長・副班長を決めて，これからの学習グループを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期の1種目を，まず選択させる。グループ活動のしやすい，1種目4～8名をめやすにする。第1希望を生かし極端に人数が偏った場合は，後期にまわすなどして調整する。 同じ種目を選択した者を，ひとつの目的（その種目の学習）に向けて，活動していく集団としての意識を高める。 	
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> 次時の説明 挨拶，解散 	<ul style="list-style-type: none"> 次時にはグループにおける学習の進め方を学ぶことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の授業からは，グループの活動が主体となることを理解させる。 	

单元名	陸上競技	配当時間	20時間中 4 時間目	学年	第 2 学年男子40名女子 1 名
本時のねらい	◎試しの記録会 ・自分の力を知る。 ・自分の力に応じた目標記録とそれを達成するための学習課題を設定する。 ・グループの学習計画を立てる。				
施設 用具	学習資料（グループノート、自己診断カード）、えんぴつ 砲丸、やり、円盤、高跳びバー、スタンド、エバーマット、スターティングブロック ストップウォッチ、メジャー、ラインカー、防球ネット				
段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	
導 入	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 集合、挨拶 出欠点呼 試しの記録会のねらいと進め方 	<ul style="list-style-type: none"> 試しの記録会を行うことで各自の力を知り、それに合った目標記録と適切な学習課題を設定することを理解する。 実際に6グループに分かれ記録会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 試しの記録会は、楽しくルールなども自分たちで決めて行わせ今の力を知る機会にさせる。 今の力に応じた目標記録や学習課題をうまく引き出せるように指導・助言を行う。 	
展	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 用具の準備 準備運動 	<ul style="list-style-type: none"> 配置図を見て、安全に留意して、準備する。 班長の指示によりグループごとに準備運動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に投てき種目は、他の種目との間隔や方向を考慮して準備するよう指導する。 種目に応じた準備運動を行うよう指導する。 	
	25 分	<ul style="list-style-type: none"> 試しの記録会 用具の後片付け 	<ul style="list-style-type: none"> 種目ごとに記録会を行う。 自己診断カードに記録を記入し、自己の力を知る。 終了したところから後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力をしっかりと理解するよう指導する。 	
開	10 分	<ul style="list-style-type: none"> 目標記録と学習課題の設定 学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の記録をもとに、今ある力で達成可能な目標記録とそのための学習課題を学習資料の中から見つけ出し自己診断カードに記入する。 各自の学習課題をもとにグループの学習課題を決め、グループノートの学習計画の欄に記入する。 以上を次時まで提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の目標を明確にする。 自分の力に応じた課題をもつことの大切さを理解させる。 学習課題は学習資料を参考に選ぶように指導する。 目標を達成するには、しっかりと見通しをもち、適切な全体計画を立てる必要があることを理解させる。 毎時間ごとの計画が整っているときに、学習活動がより意欲的かつ自主的に行えることを理解させる。 	
まとめ	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習の進め方 挨拶、解散 	<ul style="list-style-type: none"> 次時からは、各自の目標記録の達成に向けて、自主的・主体的に学習を進めていくことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の目標を達成するための学習計画の重要性を認識させる。 グループノートの提出期限を守らせる。 	

6. 指導結果とその考察

仮説を検証するために、実証授業後、実証授業を受けた生徒を対象にアンケート調査を行った。その結果と考察を以下に示す。

対象 都立高等学校 1校 2年 41名（男子40名，女子1名）

ア 陸上競技の実証授業に対して、「意欲的にできた」が31.7%、「やや意欲的にできた」が34.1%で、65.8%の者が概ね意欲的にできたと答えている。その理由の上位3項目は、「好きな種目を選べたから」55.6%、「グループで活動できたから」33.3%「自分たちで計画して自由に授業時間を使えたから」33.3%であった。

イ 授業に対しての感想は、「とても楽しかった」が24.4%、「まあまあ楽しかった」が63.4%で87.8%が楽しく授業に取り組めたとしている。また、「あまり楽しくなかった」が2.4%で、「つまらなかった」と答えた者はいなかった。楽しかった理由としては、「好きな種目を選べたから」が52.6%で、最も多かった。

ウ 授業後の陸上競技のイメージについては、実態調査と比較して「楽しい」31.7%、「わくわくする」19.5%の項目で高い数値を示している。（実態調査の数値は、「楽しい」14.5%、「わくわくする」6.3%）。一方、「疲れる」43.9%、「苦しい」26.8%の項目は逆に低い数値を示している。（実態調査の数値は、「疲れる」55.1%、「苦しい」43.1%）

エ 生徒の選択した種目（前期，後期）は、短距離走（6名，2名），走り幅跳び（7名，7名），円盤投げ（7名，9名），やり投げ（8名，10名），砲丸投げ（7名，5名）走り高跳び，（6名，4名），障害走（0名，4名）であった。その種目を選んだ理由については、「楽しそうだから」が前期48.7%，後期36.6%で最も多かった。

また、授業後その種目を「より好きになった」が53.7%で、「きらいになった」と答えた者はいなかった。次に、その種目をやってどんな時に楽しく感じたかについては、「記録が伸びたとき」が57.8%、自分のイメージ通りにできたとき」が19.2%で多かった。さらに、選んだ種目の技能については、「うまくなった」と感じている者が83%であった。これらの結果から、好きな種目を選ばせ、主体的な学習活動を促すことが、楽しさや、意欲を引きだし、それが技能の向上にも結び付くと考えられる。

オ 学習活動については、「課題にあった創意・工夫による効果的な練習ができた」とする者が80.5%、「みんなと協力しながらできた」とする者が87.8%、さらに「安全に配慮できたか」については97.6%が「できた」と答えている。これらの結果から、安全に配慮しながら、課題に合った創意・工夫による効果的な練習をみんなと協力して行うことができ

たとえられる。

カ 学習資料については、「役に立った」と感じている者が87.8%で、役に立った資料の順位は1「種目別技術解説ビデオ」、2「種目別技術解説書」、3「技能カルテ」の順であった。学習資料は、技能の理解を助け、目標やめあてを見付け出す参考になった。

キ 学習ノートについては、個人カードは「フィードバックや次のステップに役立った」とするものが78%、グループノートについては、「目標やめあてが明確になる」と答えたものが90.2%であった。しかし、「毎時間の記録は大変である」65.9%や、「グループのミーティングの時間がもてない」85.4%などの結果から、ノートの項目だけでなく、ミーティングや記入の時間の取り方を工夫する必要がある。

以上のことから、生徒一人一人が自己の能力にあった適切な学習課題を設定し、仲間と協力して自主的に学習を行うことにより、楽しく意欲的に学習に取り組み、技能を高めることができたと考えられる。

7. まとめと今後の課題

(1) まとめ

ア 生徒の希望を生かして、種目を選択させたことが、陸上競技の授業をより楽しく、主体的なものにしていく原動力になった。

イ 試しの記録会により、自己の能力を把握させ、それをもとに目標記録を設定し、それを達成することが、生徒のやる気や意欲を高める動機付けになった。

ウ オリエンテーションに十分な時間を設定し、選択制授業の意義や学習活動の進め方、学習資料の活用の仕方、安全面の配慮について細かく指導を行った。さらに、各種目の技能を解説した自作のビデオを見せることによって選択制授業への意識を高め、意欲的に学習に取り組む姿勢を育成できた。

エ 種目別グループ活動の中で、用具の準備や、お互いに記録しビデオを撮り合う、フォームを技能カルテでチェックし合うなどによって、協力して活動する態度が育成された。

オ 学習資料を活用し、各種目の技能構造を理解させ、段階的な学習方法を身に付けさせることに配慮した。その中で、特にビデオによる技術解説や、ビデオによるフォームのチェックなどのビデオ機器の活用が、技能の習得に対する良い動機付けとなり、自ら進んで学習する態度を育成していった。

カ 学習ノートは、個人カードとグループノートの2種類を活用し、毎時間グループ全体

の目標と個人のめあてを設定していった。このことにより、グループ活動を通した学習が主体でありながら、絶えず自己の課題を意識して学習活動ができた。

キ 個人カード・グループノートともに、毎時間自己評価を行い、課題の達成度を確認し次のステップにつなげていくことができた。また、技能カルテを用いて各自の技能について、自己評価と相互評価を行い、より客観的に技能の向上を確認することができた。

これらのことから、仮説『生徒一人一人に、自己の特性に応じた適切な学習課題を設定させ、学習活動を計画し実践させることで、学習意欲を高め、自主的に学習できる能力と態度を培うことができる。』ことを検証できた。

(2) 今後の課題

生徒は自主的に協力して活動することはできた。また、自己及びグループの課題を設定する上で、資料に従い一応段階的なステップを踏むこともできた。しかし、個々の技能向上のつまずきに対し、技能の全体像を見通した適切な課題を設定することや、課題解決のための適切な練習方法を工夫することが十分にできなかった。これは、生徒の選択制授業の経験が浅いことや学習資料の工夫が不足していることもあげられるが、基本的にはこの点が選択制授業における教師の助言やかかわり方のポイントになるように考える。本研究では学習ノートでの教師とのやり取りなどがその役割を担っていたが、これも十分コミュニケーションの場となり得なかったのが実態である。また、学習資料を工夫し与えてもそれを十分活用しきれていないのが実態であった。これは、グループ内で十分ミーティングするだけの時間的なゆとりがないなど、ミーティングの仕方に工夫が必要なことを示している。

以上のことから、今後の課題として学習課題の設定や課題解決のためのグループ内のミーティングの仕方の工夫、教師のグループや個人とのかかわり方の工夫など、選択制授業を円滑に行う上でこれまでの学習資料や学習ノートなどのハードの部分の工夫だけでなく、それを生かすコミュニケーションの仕方といったソフトの部分の研究・工夫が必要であると考えられる。

『バレーボール』

1. 研究内容

生徒は、いろいろな運動を体験し、楽しさや充実感・満足感を得たときに、運動に興味・関心をもつことができる。この体験を積み重ねることによって生徒は得意とする運動（種目）を見付け出し、現在のみならず生涯にわたって、自主的・主体的に運動を実践していく能力や態度を身に付けていくことができる。

本年度は、昨年度に引続き『学習意欲を高め、自主的に実践する能力と態度を培う学習指導の工夫』を主題に、B班は「バレーボール」を通して生徒が自主的活動を行っていくための学習課題の設定の仕方や、学習活動の計画や実践の工夫についての研究を進め主題にせまっていってことにした。

そのために、バレーボールの授業と選択制授業に関する意識・実態調査を実施し、その集計結果をもとにして以下のような仮説を設定した。

◎ 仮説

『バレーボールのゲームを通じその楽しさにふれながら、個人やチームの能力に応じた学習課題を自ら設定し、学習活動を計画・実践することにより、生徒一人一人の学習意欲を高め、自主的に学習できる能力・態度を培うことができる。』

上記仮説を検証するために指導計画を作成し、実証授業を行い、結果を分析・考察した。

2. バレーボールの特性とねらい

(1) 特性

ア ネットをはさんでボールを打ち合い、相手との攻防の中で得点を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる。

イ チームの中で、生徒一人一人が個々の特性や役割を自覚して、その責任を果たし、お互いに協力し合うことで、さらに楽しさや喜びを味わうことができる。

(2) ねらい

ア 個人やチームの能力・適性に応じた練習を行うことにより、より高い技能を身に付ける。

イ 適切な練習及びゲームを通してルールやマナー、審判法を理解し、公正な態度を培う。

ウ 個人やチームの特性に応じた学習課題を設定し、学習活動を計画・立案し、自主的・主体的に学習する能力を高める。

3. 意識、実態調査とその考察

- (1) 調査対象 都立高校体育科教諭 62校 121名
都立高校3学年生徒 13校 366名
男子 182名 女子 184名

(2) 調査内容

〔生徒〕

- ・ゲームの楽しさについて
- ・グループ分け、授業形態について
- ・学習課題の設定方法について
- ・学習ノートの内容について
- ・学習評価と評価の観点について

〔教師〕

- ・選択制の授業について
- ・学習課題の設定方法について
- ・学習評価と評価の観点について

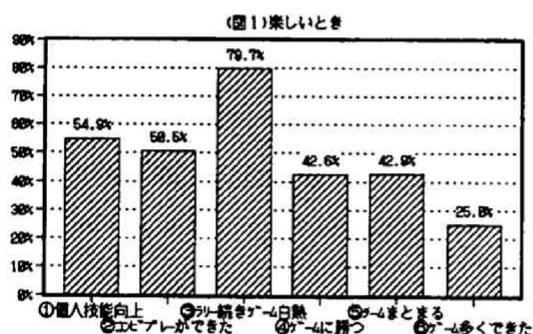
- (3) 調査時期 平成5年7月

(4) 結果と考察

ア 年間指導計画の中で、選択制授業を実施している学校は調査した高校のうち65%であり、実施校の83%でバレーボールを取り入れている。

イ バレーボールの授業でゲームを行っていて楽しいと感じるときは、「ラリーが続いたりゲームが白熱したとき」79.7%、「個人技能が向上したとき」54.9%、「コンビプレーができたとき」50.5%をあげており、

ゲームの質の高まりを楽しさにとらえている。このことから、ゲームの中での各自の役割・フォーメーションプレーを身に付け、チーム力の向上を目指すことにより、生徒の学習意欲を高めることができると考えられる。



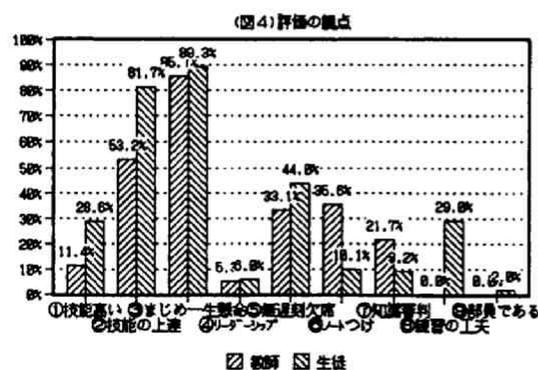
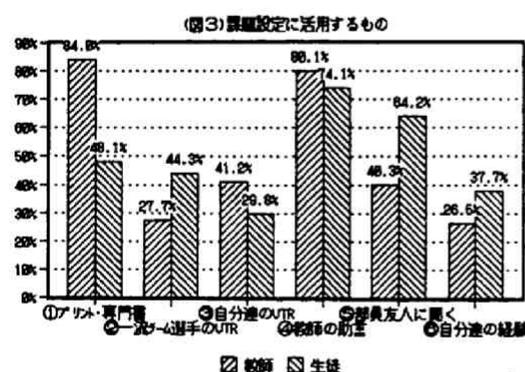
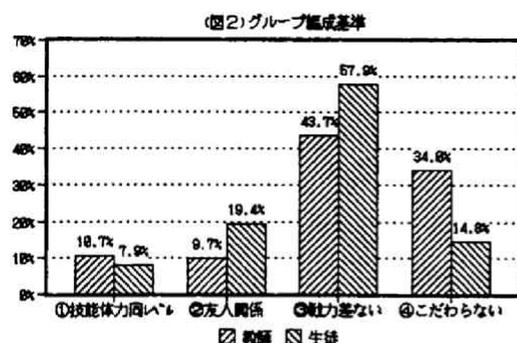
ウ グループの決め方については、「教師が決める」と回答したのは生徒、教師ともに1割前後であり、グループ編成にあたっては生徒主体に行い、必要なときには教師がかかわることが望ましいと考えられる。また、グループ編成の基準については、「戦力に差が出ないように」が生徒57.9%、教師43.7%と、ともに最も多い。このことから試しのゲーム等を活用し、自他の能力を把握する場面を設定することが必要と考えられる。

エ 学習課題の設定方法については、生徒は「先生が設定」することを望み、教師は「生

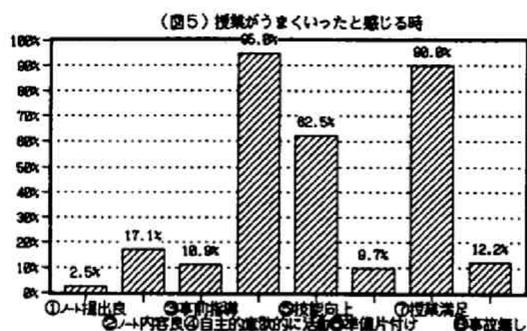
徒と教師が一緒になって設定」することをあげている。結果全体から、生徒は教師による設定を期待していることがうかがえる。また、学習課題設定のため活用する情報は、生徒は「教師の助言」74.1%、「部員や友人に聞く」64.2%をあげ、教師は「各種プリントや専門書の活用」84.0%、「教師の助言」80.1%をあげている。このことから生徒は課題設定の方法として他者から教えてもらうという安易な方法を望んでおり、自主的・主体的に学習に取り組ませるためにはオリエンテーションを重視していくことが必要と考えられる。

オ 選択制授業において学習ノートに「十分活用している」と回答した教師は4割である。また、「学習ノートの内容についてどのような項目が必要か」という問いに対して、「対戦表」「チームの目標」「個人の目標」「チームの反省」「個人の反省」「教師の助言」「生徒同士の助言」「練習計画」「授業内容」のすべてに生徒は、「どちらともいえない」の割合が高かった。教師は全項目について必要と回答している。これは生徒は学習ノートの必要性は感じているものの、実際に学習ノートを使用したことが無い生徒が多いことを示している。したがって、学習ノートそのものを見直すとともにノートの活用の仕方を工夫し、積極的に授業に活用していくことが必要と考えられる。

カ 「授業において、どのような点を評価しますか」という問いに対して「まじめに一生懸命取り組んでいる」が生徒89.3%、教師85.7%、次いで「技能の向上」生徒81.7%、教師53.2%をあげている。すなわち、生徒と教師ともに授業への取り組み方や技能の向上の度合を、評価の観点として重視していると考えられる。



キ 教師は、どのようなときに授業がうまくいったと感じるかという「生徒が自主的、意欲的に学習課題にそって活動しているとき」95.0%、「生徒が授業に満足し次回を楽しみにしているとき」90.0%をあげている。このことから自主的、意欲的な授業を展開するために教師としては、学習資料やグループノート等を工夫し、十分活用させ、生徒に適時、適切な助言を与えるなど学習活動を支援していく必要がある。



以上が結果と考察であるが調査校中で選択制の授業を取り入れているのは65%であり、この調査に関しては、生徒も教師も選択制授業を実際には未経験で回答しているものも含まれている。したがって質問項目によっては回答者の意図が十分反映できなかったと思われるが、全体の傾向はつかめたといえる。

調査全体を通して、教師に授業展開を依存する傾向にある生徒と、生徒の自主性を大事にして、できるだけ生徒主体の学習活動の展開を期待している教師との意識の差がみられた。これは、面倒なものをいやがる生徒の気質とも考えられるが、生徒が自主的・主体的に学習活動を行うという、選択制授業の経験やイメージが少なく、従前通りの教師主体の授業形態の感覚から抜け出せないものと考えられる。したがって、オリエンテーションや普段の授業を通して教科体育の目標やねらい、新しい学力観と評価観等について十分に理解を深めさせ生徒の意識改革を行うことが必要と思われる。

4. 指導計画

(1) 指導の方針

- ア バレーボールの特性を理解させ、練習・ゲームを通して技能の向上を図るとともにバレーボールの楽しさにふれられるよう配慮した。
- イ 生徒やチームが適切な課題をもち、学習資料・学習ノートを活用しながら学習計画を立案し、自主的・計画的な学習が行えるようにした。
- ウ 自他の健康・安全に留意し、互いに協力して学習できるようにした。

(2) 指導の工夫

- ア オリエンテーションの重視

自ら選び、自ら学ぶという選択制授業のねらいを十分に理解させるために、オリエンテーションに3時間をあて充実させた。特に3時間目は、試しのゲームを実施し、適切な個人及びチームの課題の発見や、今後の学習計画の立て方・進め方の参考とさせた。

イ チーム編成の工夫

練習およびゲームを円滑に楽しく行わせるために、各チームの戦力が均一になるように適時・適切な教師の助言のもとに生徒の話し合いを中心にチーム編成した。

ウ 指導計画の工夫

「今もっている技能でゲームを楽しむ」段階から「高まった技能に応じて作戦を立て、チームの特性や自己の役割を生かしてゲームを楽しむ」段階へと学習するねらいを明確にし、個人とチームの実態に応じて適切な学習課題を設定できるようにした。

エ ゲームの重視

毎時間ゲームを通じて、バレーボールの楽しさにふれさせるとともに、個人及びチームの課題や学習方法を選択し、学習計画を立案する際にゲームを役立たせた。

オ 学習資料の有効な活用

参考となる学習資料を準備し、学習計画を作成する際や学習活動を効果的かつ円滑に行うために十分活用させた。

カ 学習ノートを活用

「計画（Plan）－実施（Do）－評価（See）」の一連の学習活動が自主的・主体的に行えるように、学習ノートの充実を図った。

キ チェックシートの活用

試しのゲーム及び中間まとめにおいて、チェックシートを利用して選択制授業の趣旨が理解されているか、自主的・計画的に学習が進められているかどうかを確認させた。さらに自己の技能やチームの活動状況を正確に把握させ、次の段階の学習課題の設定に生かせるようにした。

(3) 単元計画

今回は第3学年男女75名中バレーボール選択者19名（男子13名、女子6名）を対象に20時間を配当した。また、ゲームを行う際にルールを工夫し、男女が共に意欲的に学習できるように配慮した。

オリエンテーション・ねらいⅠ・中間まとめ・ねらいⅡ・最終まとめの指導計画

段階	時間	ねらい	生徒	評価	教師
			学習活動		指導上の留意点
オリエンテーション	2	選択制授業の趣旨と進め方を理解し、学習計画立案のための課題の設定の仕方を理解する	①選択制授業の趣旨・概要の理解 ②授業の進め方の理解 ③学習資料の効果的な活用の仕方の理解 ④学習ノートの活用方法と評価についての理解 ⑤選択種目希望調査の記入 ⑥学習計画の作成の仕方の理解 ⑦チーム編成、役割分担 ⑧次時の試しのゲーム確認	・選択制授業の趣旨、概要が理解できたか ・学習の進め方が理解できたか ・学習資料、学習ノートの活用の仕方が理解できたか ・適切な選択及びチーム編成が話し合いで行われたか	・選択制授業のねらいと学習の進め方を十分理解させる ・学習資料、学習ノートの効果的な活用方法を理解させる ・適切な種目を選択させ、チーム編成、役割を決めさせる ・チーム編成については、各チームの戦力が均等になるように生徒に話し合いで決めさせる
	1	試しのゲームの結果から、単元の学習計画を立てる	①試しのゲーム ②チェックシートによる学習課題の発見 ③学習ノートの具体的記入(学習計画立案、作成)の仕方の理解	・試しのゲームの結果を正しく自己評価し、課題にそった学習計画が立案できたか	・試しのゲームの結果を自己評価させ、学習課題と学習方法を見いださせる ・課題意識をもって学習を進めるように指導、助言を適切に行う
ねらいⅠ	5	選択制授業の学習方法に慣れると同時に個人及びチームの課題に基づいた効果的な練習を実践する	①本時の学習計画の作成 ②試合の方法・ルールの話し合い ③学習計画に基づく自主的な活動 ④チーム毎の評価 ⑤チーム毎に施設や用具の片付け	・本時の学習計画が適切であったか ・試合の方法・ルールは適切であったか ・チーム毎に活動が計画通り進められたか ・次時の学習課題が見いだせたか	・指導助言を適切に行い、計画に沿った活動をさせる ・ゲームを楽しめるよう技能レベルに合ったルールを工夫させる ・チーム毎に活動が円滑に進むように指導する ・本時の評価を積極的に行わせ、個人及びチームの次時の課題を見いださせる
中間まとめ	1	選択制授業の進め方や学習活動を評価し計画の再検討を行う	①チェックシートを利用した学習活動の評価 ②今後の学習計画の再検討 ③新たな学習課題の設定 ④学習計画に基づく自主的な活動	・チェックシートや話し合いの結果を今後の学習計画にどのように生かしているか	・チェックシートの評価をもとに、話し合いの場で得た意見を参考に学習活動の再検討を行わせる ・意見交換を積極的に行わせ、学習活動の再検討を行わせる
ねらいⅡ	10	中間まとめでの評価を生かし、より高いレベルの課題を設定し、その解決のために効果的な練習を実践する	①新たな学習課題に基づく自主的な学習活動 ②チーム毎の評価 ③チーム毎に施設や用具の片付け	・各チームが課題解決を図るために自主的・主体的に活動できたか ・学習計画・学習方法が適切であったか	・活動中の指導、助言を適切に行い、新たな課題に挑戦させたり、練習方法を工夫させることにより意欲的に課題に取り組ませる ・チーム毎に活動が円滑に進むように指導する ・次時の課題が適切に見いだせるように評価内容等について助言する
最終まとめ	1	単元のまとめと評価を行う	①学習ノートの整理 ②自己評価・相互評価 ③チーム毎の学習全体のまとめ ④感想文	・ゲームを通じ、バレーボールの楽しさに触れられたか ・技能が向上したか ・チーム毎に学習活動が協力してできたか ・継続的に運動を实践する意欲・能力が身に付いたか	・チーム毎にまとめと評価を行う ・学習ノートをもとにして十分な話し合いをさせる ・正しく自己評価・相互評価ができるように助言する

5. 指導事例（実証授業）

単元名	バレーボール	配当時間：20時間中 1時間目	学級：第3学年1・2組 男女75名	
本時のねらい	◎オリエンテーション1 ・選択制授業の趣旨，概要を理解する。 ・種目，チーム毎に学習する内容・方法を理解する。 ・選択希望調査を行う。			
施設用具	・体育館 ・学習ノート ・希望調査票 ・学習資料 ・参考資料（プリント1枚）			
段	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	10分	・集合 ・挨拶 ・出欠調査 ・本時の説明	・体育の新しい方向と選択制授業について理解する。	・分かりやすく説明し，選択制授業を十分に理解させる。 ・参考資料（プリント）を参照させる。
展開	5分	・選択制授業の趣旨，概要説明	・個人やチームで課題をもち，自主的，主体的に学習を進めていく授業の全体像を理解する。 ・学習の流れ「計画（Plan）実施（Do）評価（See）」を理解する。	・選択制授業のねらいを十分理解させる。 ・生徒が自ら種目を選び，学ぶ。それを教師が支援することを生徒に理解させる。
	10分	・授業の進め方	・グループ毎に集合し，出欠・調査，本時の活動内容の確認，施設・用具の準備，準備運動，主運動，整理運動・まとめ，片付けという授業の流れを理解する。	・生徒が主体的に取り組めるように具体的に流れをイメージさせ，授業の進め方を十分理解させる。 ・意欲的，積極的に取り組むことを強調する。
	10分	・学習資料，学習ノートの効果的な活用方法と評価	・学習ノート，学習資料の効果的な活用方法を理解する。 ・個人やチームの課題を見いだすための自己評価を理解する。 ・課題解決のために学習資料を積極的に活用することを理解する。	・学習ノート，学習資料を参照させる。 ・適切な課題の発見，学習ノートを利用した自己評価について理解させる。 ・評価と評定の違いを理解させる。 ・自分たちに適した練習方法を見だし実践することを理解させる。
	10分	・選択種目希望調査	・実施種目の選択肢の中から，各自の興味，関心，能力，適性に応じて種目を選択する。 ・希望調査票に記入する。	・生徒が主体的に慎重に，適切な種目を選択するように指導する。 ・一人一人こまめに助言するよう，心がける。
整理	5分	・次回の学習の進め方について ・挨拶 ・解散	・次回は各種目毎に別れてチーム編成，役割分担，学習計画を立てることを理解する。	・次回は，自分たちの能力に応じて適切な学習計画を立てることを理解させる。

単元名	バレーボール	配当時間：20時間中 2時間目	学級：第3学年1・2組男女 75名	
本時のねらい	◎オリエンテーションⅡ ・学習計画の作成の仕方を理解する。 ・チーム編成と役割分担 ・次回の学習計画を実際に立てる。 (内) バレーボール選択者19名 (男子13名, 女子6名)			
施設 用具	・体育館(バレーコート1面) ・参考資料(プリント1枚) ・学習資料 ・学習ノート			
段	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	10分	・集合 ・挨拶 ・出欠調査 ・本時の説明	・本時は学習計画の作成の仕方を学び、実際にチーム毎に役割分担をし学習計画を立てることを理解する。	・前時の復習をし、選択制授業についてさらに理解を深めさせる。
展 開	20分	・学習計画の作成の仕方について	・単元の目標を受けて個人やチームの課題を決める。 ・学習課題を解決し、学習を進めて行くためにオリエンテーション等をのぞく17時間の全体計画を立案することを理解する。 ・全体計画に即して、毎時間ごとの個人やチームの学習計画を立てることを理解する。 ・毎時間、ゲームを行うことの意義を理解する。 ・学習計画を作成する際、学習資料(配布した資料)、その他の参考書やVTR等を十分に活用することを理解する。	・選択制授業は、個人とチームがそれぞれ課題を設定し、自主的、主体的に学習活動を行うことが必要であること、そのために適切な学習計画を立てることが大切であることを理解させる。 ・見通しのある全体計画を立てることの大切さを理解させる。 ・今、持っている力でゲームを楽しみ学習資料から適切な練習方法、ルールやゲームの運営方法を選び、工夫することの必要性を理解させる。
	15分	・チーム編成と役割分担	・1チームが6～10人になるように、また、チームの総合力が均等になるようにチーム編成する。 ・チーム内に班長1名、副班長1名、出欠係1名、体操係1名、用具係1名を決める。 ・学習ノートの必要箇所を記入する。	・各チームの総合力が均等になるように指導し、生徒たちが話し合いで決めるように配慮する。 ・役割分担も話し合いで決めさせる。 ・学習資料を参考にさせる。
整理	5分	・次回の説明 ・挨拶 ・解散	・次回は、実際に自分たちの実力を知るために、試しのゲームを行うことを理解する。	・次回は、自分たちの能力に応じた学習課題の設定のために、実際にゲームを行うことを理解させ、準備等の指示を与える。学習ノートも提出させる。

単元名	バレーボール	配当時間：20時間中 3時間目	学級：第3学年1・2組男女 75名	
本時のねらい	◎オリエンテーションⅢ (内)バレーボール選択者19名 (男子13名, 女子6名) ・練習計画立案のための試しのゲームを行う。 ・チーム毎にゲームの反省を行い、個人やチームの課題を見いだす。 ・安全面に留意して、チーム全員で協力して活動する態度を養う。			
施設 用具	・体育館(バレーコート1面) ・ボール ・ホイッスル ・学習資料 ・ネット ・ラインズマンフラッグ ・学習ノート ・得点板 ・チェックシート			
段	時	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	10 分	<ul style="list-style-type: none"> 集合 挨拶 出欠調査 コート・用具の準備 準備運動 	<ul style="list-style-type: none"> チーム毎に集合し出欠を確認し、コートや用具の準備を行う。 チーム毎に体操係により準備運動を行う。 安全に留意して活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 協力して速やかに行わせる。 用具を丁寧に扱わせる。 準備運動は十分に行わせる。 ボールを使つてのウォーミングアップも取り入れさせる。
展 開	25 分	<ul style="list-style-type: none"> 試しのゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題を見いだすためのゲームを行う。 あらかじめ決めておいた組み合わせでゲームを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームの運営は全員で協力させ、円滑に行わせる。 審判、ラインズマンも自分たちで行う。 試合は15点先取、または10分間で行う。 ゲームを通して、自己及びチームの課題を見いだすことを理解させる。
	5 分	<ul style="list-style-type: none"> チェックシートの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見いだすためにあらかじめ用意されたチェックシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各チーム話し合いをさせながら、正確にチェックシートに記入させる。 チェックシートを活用させて、チームの課題を見いださせる。
	5 分	<ul style="list-style-type: none"> チーム毎に学習ノートの記入 学習計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 学習ノートの記入。 ゲームを通して明らかになった個人及びチームの問題点を話し合い課題を設定し、学習計画を立てる。 本時の活動やミーティングの内容についての指導、助言を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 試しのゲームの結果を自己評価させ学習課題と学習方法を見いださせる。 チームを巡回しながら、話し合いの内容を把握し、課題意識をもって学習を進めるよう指導助言を与える。
整 理	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 次回の授業の進め方について 片付け 挨拶、解散 	<ul style="list-style-type: none"> 次回から、本時に学習したことを生かして適切な学習計画を立て、自主的、主体的に学習を進めていくことを理解する。 学習ノートの記入者を確認する。 チーム毎にコートや用具の片付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの能力に応じた、学習課題を設定することの大切さを理解させる。 学習ノートの提出期限を守るようにさせる。 安全に協力して行わせる。

6. 指導結果とその考察

仮説を検証するため、実証授業後、授業を受けた生徒を対象にアンケート調査を行った。その結果と考察を以下に示す。

対象 都立高等学校 1校 19名（3学年 男子12名、女子7名）

ア バレーボールの授業に対して「楽しく意欲的に参加できた」と回答している生徒は94.7%であった。このことから今回は生徒の希望を生かし、男女別にチームを編成し、ゲームも男子チームと女子チームが対戦することがあったが、ルールを工夫することによりほとんどの生徒が楽しく意欲的に学習できたと考える。

イ 学習ノートの活用については「授業を進める上で役立った」94.7%、「全体的に書く量は適切だった」89.4%、「授業後反省、感想の欄は授業を振り返るのに役立った」89.4%で、いずれも高い数値を示し、学習ノートの役割を評価している。

ウ 自己評価、チーム評価については「次の課題の設定に役立った」84.2%、「自分の参加の様子がわかってよかった」89.5%という意見が多く、内容的にも適切であったといえる。

エ 学習資料については「学習課題の設定に参考になった」94.7%、「技能を習得するのに参考になった」94.7%、「今後も、こういった学習資料はあった方がよい」94.7%が回答しており好評であった。

オ ゲームの重視については「毎回ゲームを中心にできて良かった」と回答した生徒は94.8%で毎時間行うゲームを通じて、バレーボールの楽しさにふれさせることができた。

カ 学習課題の達成については「良くできた」21.1%、「まあまあできた」78.9%が回答しており、ほとんどの生徒が概ね課題を達成できたものと考えられる。

キ オリエンテーションの中で「試しのゲーム」を行ったが「自分達で学習課題を決めることができた」94.7%、「計画通りに学習することができた」94.7%が回答しており課題の発見や、学習計画の立て方、進め方の参考となった。

以上のことから、オリエンテーションを重視し、個人やチームの特性に応じた学習課題を設定し、学習資料や学習ノートを効果的に活用しながら学習計画を立案することによって、学習課題の解決、達成ができた。その結果、楽しく意欲的に学習できる能力・態度を培うことができたと考える。

7. まとめと今後の課題

(1) まとめ

ア オリエンテーションを重視することで、選択制授業の意義やねらいについて生徒の理解の徹底を図った。しかし、選択制という授業形態の経験が不十分なため、オリエンテーションの段階では、全員が十分に理解するまでには至らなかった。実際に、学習活動が始まり学習ノートを利用し、学習計画を立て実践していくうちに、選択制授業に対する理解が深まっていった。

イ 試しのゲームは、個人やチームの学習課題を設定し学習活動を計画・実践するために十分役だった。

ウ チーム編成については、生徒の希望を生かし、男子チームと女子チームに編成したが、ゲームのルールを工夫させることにより学習を楽しく意欲的に進めることができた。

エ ゲーム主体の学習展開は、バレーボールの楽しさにふれながら、ゲーム内容を毎時間検討することで、個人やチームの学習課題の設定、学習活動の計画・実施・評価という学習展開の質的向上を図るのに役立った。また、ルール・審判法・試合運営方法を十分理解し、学習意欲を高め、意欲的に学習活動を行う態度を養うことができた。

オ 学習資料・学習ノートの活用は、学習課題の設定や学習活動の計画・実践に役立ち、自主的・主体的な学習を促すことにつながった。また、教師の指導助言により学習ノートの内容の充実がみられ、それにともない学習活動の質的向上が認められた。

カ 学習ノートの中の自己評価やチーム内の評価に加え、オリエンテーション・中間まとめの段階で実施したチェックシートは、個人やチームの学習課題を再検討し、より適切な学習計画の立案・実践に役立った。

以上の事から、仮説を検証することができた。

(2) 今後の課題

ア オリエンテーションでビデオ等を活用し、言葉や文字だけでなく映像も利用して選択制授業の趣旨や進め方について理解の徹底を工夫する。

イ 選択制授業の趣旨を徹底をさせるため、単年度ではなく3年間を見通した段階的な選択制授業の年間計画を作成する。

ウ 生徒に対する事前・事後の指導、授業中の指導に対する組織的な取り組みを工夫する。

エ 生徒の実態に合わせた学習ノートや学習資料の内容や活用についてさらに工夫をする。

オ 評価・評定のあり方の検討をする。